マーケットの底流を読む

リスク回避でも円高限定、持続余地をにらむ

ドル復調、日本の利上げと財政疑念、円ロング状態など

（株）ジャパンエコノミックパルス
Japan Economic Pulse Co., Ltd.
info@j-pulse.co.jp

2026/11/9（月）

米日などでの株安激化にあって、為替相場ではリスク回避等による円高の度合いが限定的になっている。当座はその持続性を見極める展開となりそうだ。円高の抑制にはドル復調があり、米国経済の底堅さや中間選挙でのトランプ与党敗北による財政悪化・対外強硬・米 FRB 独立性侵害の各懸念後退などがある。一方で日本は AI 需要の不透明感や市場混乱、中東鎮静・資源下落期待などで日銀の利上げ加速観測が揺らいでいるほか、財政にも疑念が残る。一部の海外投機筋は 9 月から円ロング・ポジション（円の買い持ち）にあることも、ポジション圧縮による円高の圧力を和らげている。

米国、財政悪化・対外強硬・FRB 侵害懸念が緩和

米国株市場で AI・ハイテク関連株は、10 月 28 日以降に再下落となってきた。11 月 6 日にかけて米日株など世界的に株安が激化となっているが、為替相場では 6 日のアジア市場段階でリスク回避等による円高・外貨安の度合いは限られている。

円の対主要通貨スポット（直物）取引における通貨別成績では、10 月 28 日から 11 月 6 日アジア市場にかけての上昇率上位に、スイス、ハンガリー、英国、スウェーデン、南アフリカ、ユーロ圏、ポーランド、米国、中国などの各通貨が並んでいる（円は各通貨に対して下落や上昇抑制）。

米国の中間選挙後 11 月 4 日以降にはドルの復調が見られ、全般的な円高圧力が緩和されている。ドル復調に関して指摘・想定されている要因としては、「現状の米国経済は雇用を始めとして底堅い」、「中間選挙での与党・共和党の敗北により、トランプ米大統領の影響力後退が見込まれる（財政悪化の歯止め、戦争や関税などの対外強硬姿勢の緩和＝米国経済への悪影響や海外のドル離れを制御、米 FRB の独立性侵害の懸念後退＝FRB はインフレ予防に利上げ等のフリーハンド）」、「米国債不安の一旦後退＝米債金利低下・ドル安を米債価格上昇・ドル高が減殺」、「米国系の投資家が日本株など世界のリスク資産を一旦売却し、米国本国に資金を戻している可能性」といった点がある。

現状段階では米国の AI・データセンターへの規制強化懸念が、米日株の大幅安を促している。この点に関してはマイナス面があるものの、ドル高の要因として「米国内での関連投資や関連企業の資金調達などで、前倒しでのドル調達需要が強まる」、「ドル資金の調達コスト上昇や、ドル調達難によるドル資金の逼迫化が警戒される」、「日本の AI 関連投資企業や、米国現地での活動拡大企業に関して、ドル資金の前倒し確保やドル調達のコスト上昇、ドル調達難やドル不足が注視される」といったことがある。

中間選挙での与党敗因となったイラン戦争に関しては、トランプ政権による出口戦略が期待され始めた。実際に停戦へ向かえば、米国での資源下落と物価下落、FRB の利上げ回数減少などにより、ドル安の要因となる。その一方で米国の軍事支出と財政悪化の歯止めや、資源下落による米国の経済活動や消費の支援効果などは、貿易輸送の正常化などはドルの下支え材料となりやすい。

現状、リスク回避でも円高が限られている背景として、円安の要因もある。AI・半導体関連の需要不透明感は、日本で物価上振れのリスクを一旦は抑制させる。同時進行での株式市場の混乱のほか、中東鎮静と資源下落・物価下落の期待感などは、日銀による利上げペース「加速」観測を後退させるものだ。

すでに日銀の政策金利に先行性や相関性のある 2 年債金利は、9 月末に 2.0%に接近する上昇となったあと、11 月 6 日にかけては 1.72%方向に急低下となってきた。一旦の政策金利 2%方向への利上げ織り込み進捗と、過度な織り込みの修正が見られている。過去実績として為替相場では、円高の抑制や円安の要因となりやすい。

クロス円の月間高値や安値、前月末値比が参考に

財政面で米国では中間選挙での与党・共和党敗北により、上下院で多数派となった民主党による財政悪化歯止めの牽制と監視が強まっていく。反対に日本では年末にかけての予算編成論議などで、食品消費税減税や給付金、防衛費増額などの財政不安が残されたままだ。財源などに不透明感が残っており、潜在的な円高抑制や円安の要因となる。

その他、現在の為替相場では米シカゴ先物市場での海外投機筋などが 9 月以降、ネット円ロング・ポジションを積み上げている（円の買い持ち）。この点もリスク回避によるポジション圧縮（アンワインド）があっても、円高圧力が強まりにくい構図となっている。

為替相場でのクロス円（円の対非ドル通貨相場）取引に関して、月間ベースにおける外貨の高値メドや安値メドについて、参考になるのが前月の月末値からの変化幅だ。最近の値幅は以下のようになっている（ブルームバーグの為替レートを参考）。足元 11 月は「10 月末値比」からの変化幅に関して参考になる。

＜ユーロ/円＝10 月末値は 175.59 円＞

最近の「月間高値－前月末値」変化幅＝10 月が＋

1.0円、9月が＋0.3円、8月が＋2.5円、7月が＋1.8円、6月が＋0.5円、5月が＋2.4円、4月が＋4.5円、3月が＋0.3円（参考例；10月末時の175.59円から＋1円では176.59円）。

最近の「月間安値－前月末値」変化幅＝10月が－3.3円、9月が－8.2円、8月が－4.2円、7月が－3.5円、6月が－2.7円、5月が－1.6円、4月が－1.1円、3月が－2.5円（参考例；10月末時の175.59円から－3円では172.59円）。

＜ポンド/円＝10月末値は210.77円＞

最近の「月間高値－前月末値」変化幅＝10月が＋3.4円、9月が＋0.5円、8月が＋2.9円、7月が＋4.1円、6月が＋1.4円、5月が＋2.1円、4月が＋6.5円、3月が＋3.3円。

最近の「月間安値－前月末値」変化幅＝10月が－1.0円、9月が－9.5円、8月が－5.0円、7月が－3.2円、6月が－1.9円、5月が－1.8円、4月が－0.6円、3月が－0.9円。

＜スイス・フラン/円＝10月末値は191.04円＞

最近の「月間高値－前月末値」変化幅＝10月が＋3.8円、9月が＋0.3円、8月が＋2.1円、7月が＋0.5円、6月が＋0.3円、5月が＋4.1円、4月が＋6.0円、3月が＋1.0円。

最近の「月間安値－前月末値」変化幅＝10月が－0.1円、9月が－10.0円、8月が－4.4円、7月が－5.5円、6月が－5.0円、5月が－1.1円、4月が－0.2円、3月が－5.2円。

＜カナダ・ドル/円＝10月末値は112.81円＞

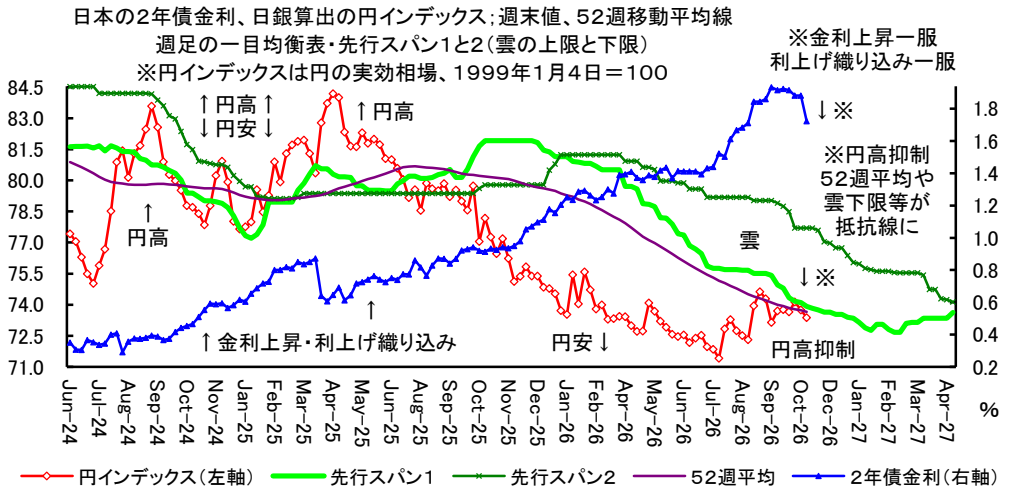
最近の「月間高値－前月末値」変化幅＝10月が＋2.5円、9月が＋0.2円、8月が＋2.0円、7月が＋2.0円、6月が＋0.3円、5月が＋1.0円、4月が＋3.4円、3月が＋2.7円。

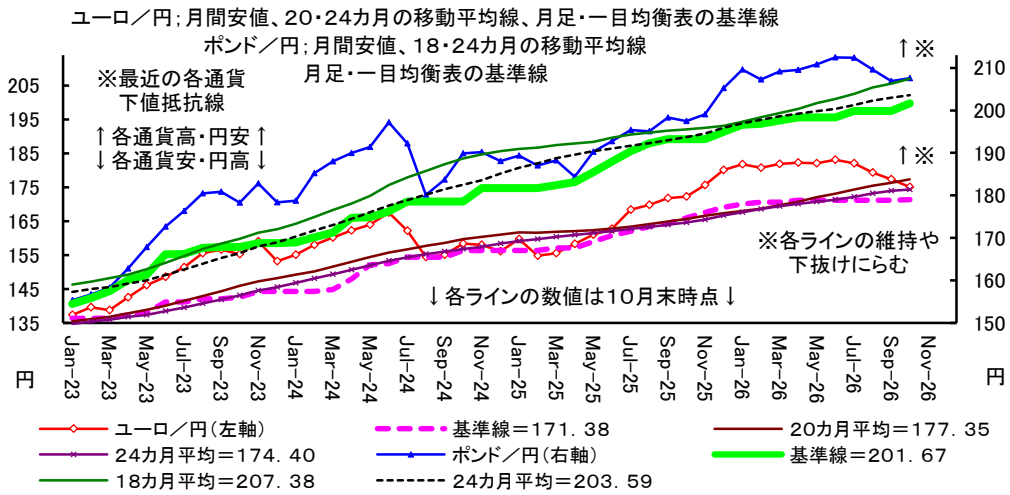
最近の「月間安値－前月末値」変化幅＝10月が－0.3円、9月が－5.0円、8月が－2.8円、7月が－1.7円、6月が－1.8円、5月が－0.9円、4月が－0.2円、3月が－0.7円。

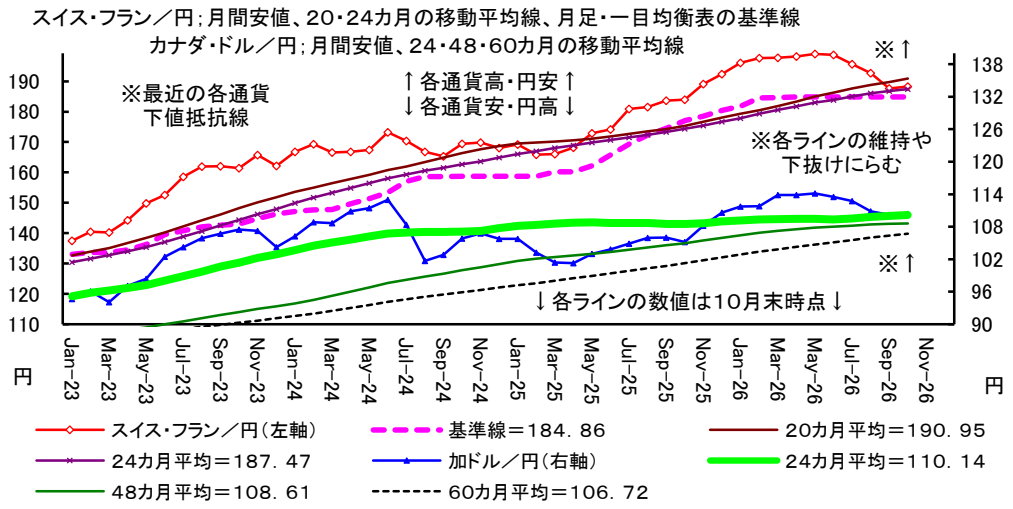
＜豪ドル/円＝10月末値は110.68円＞

最近の「月間高値－前月末値」変化幅＝10月が＋2.2円、9月が＋0.2円、8月が＋3.0円、7月が＋2.2円、6月が＋0.5円、5月が＋2.3円、4月が＋5.3円、3月が＋2.9円。

最近の「月間安値－前月末値」変化幅＝10月が－0.7円、9月が－5.6円、8月が－2.7円、7月が－1.5円、6月が－3.2円、5月が－0.5円、4月が－0.1円、3月が－2.3円。







お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。